

平成24年度 教育実習修了生へのアンケート結果

文学部教職課程

准教授 今井 航

講師 牧 貴愛

1. アンケートの実施目的

教育実習を終えた教職課程履修者に対して、平成24年11月30日（金）に事後の実習指導が行われた。その際、アンケートを実施した。本アンケートは、平成19年度から実施しており、今回で6回目となる。教育実習の内容はどうであったか。また、実習を終えてどのような変化があったか。今回もそのような問いを教育実習を終えた者に投げかけ、彼らがそれに対して自らどのように評価しているのかを答えてもらった。

2. 方法

当日は、69名の履修者が対象となった。アンケートの内容は、大きく分けて**教育実習に関する評価と自己評価**の二点であった。いずれも、5段階評価を採用した。5段階は、以下のように設定した。

5 強くそう思う 4 そう思う 3 どちらともいえない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

上記1から5までのうち一つだけ該当する数字を選び、これに○印を付けてもらった。また、**その他**として主に公立学校教員採用選考試験に関する事項を調査した。さらに、**教職課程への要望**を自由に記述してもらった。以下の通りである。

I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。	5	4	3	2	1
②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。	5	4	3	2	1
③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。	5	4	3	2	1
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。	5	4	3	2	1

II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。	5	4	3	2	1
②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。	5	4	3	2	1
③大学卒業後は、教職関係（公/私立の臨時的任用教員、塾講師など）に就職したい。	5	4	3	2	1
④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。	5	4	3	2	1

III. その他（YesかNoのどちらかに○印を付けてください）

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。	Yes	・	No
②あなたは、今年度の公立学校教員採用選考試験を受けましたか。	Yes	・	No
③今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていますか。	Yes	・	No
④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。	Yes	・	No

上記Ⅲ. ②でYesと回答された方は、受験した都道府県名、或いは都市名を下のカッコ内に全て記して下さい。
()

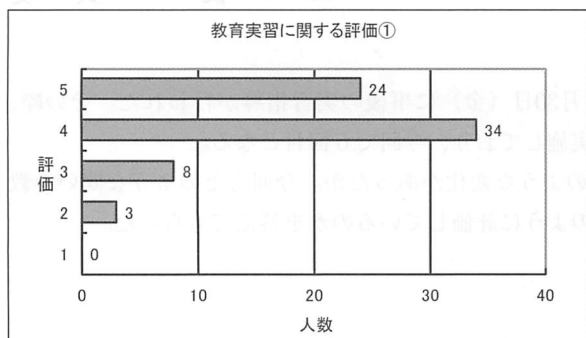
IV. 教職課程への要望（下の空欄に、実習の事前・事後の指導や講義・演習のことなど自由に書いてください）

3. アンケート結果

それでは、項目ごとに結果をみてみよう。

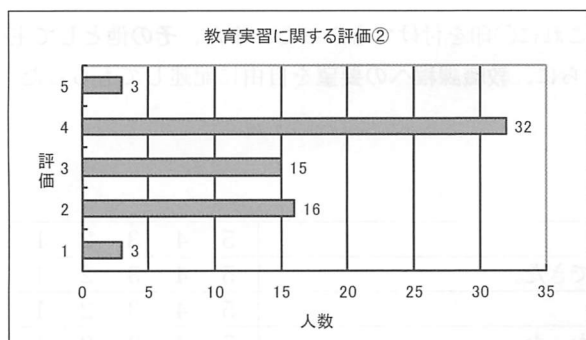
I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。



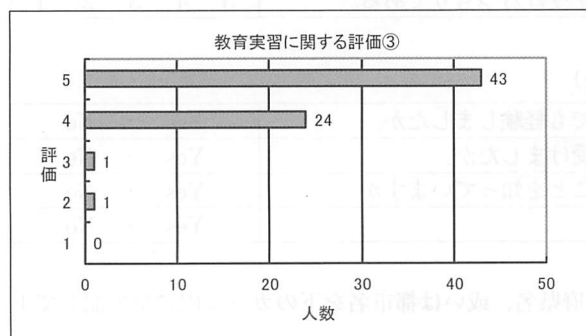
58名（84％）が十分に教材研究を行い、授業にのぞんだとしている。

②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。



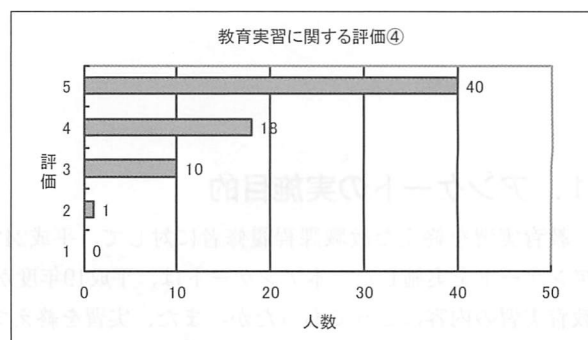
学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができたとする者は35名（51％）である反面、34名（49％）がどちらともいえない、あるいは思い通りにはいかなかったとしている。

③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。



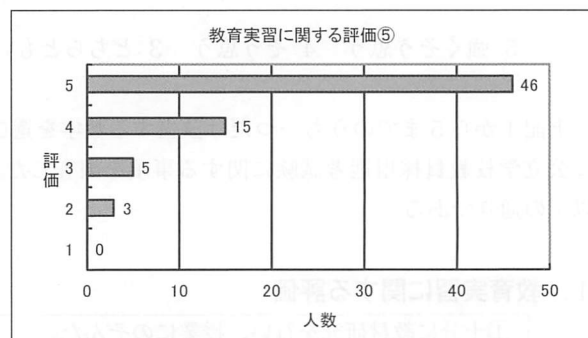
67名（97％）が熱意をもって、教育実習に取り組んだとしている。

④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。



58名（84％）が積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかったとしている。

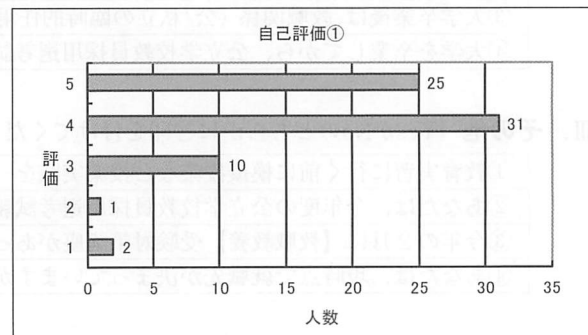
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。



61名（88％）が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守ったとしている。一方で、ごく少数ではあるが、そうではなかったとする回答もみられる。

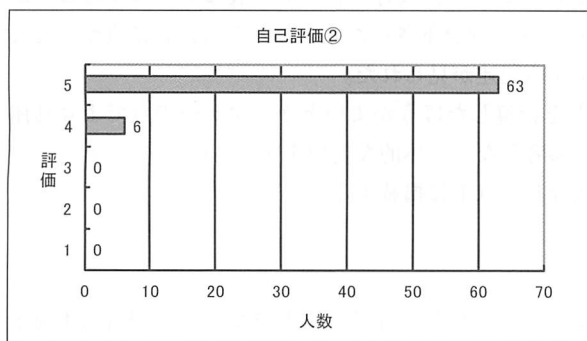
II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。



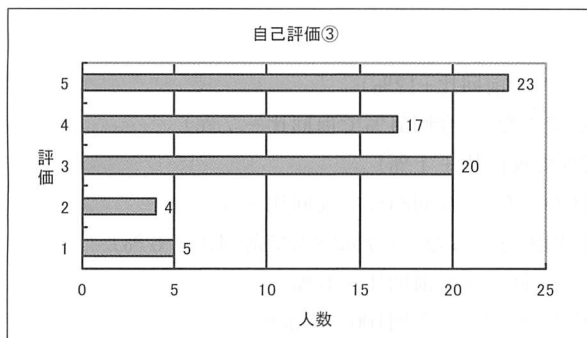
56名（81％）が教育実習中に学習指導案の作成能力が向上したとしている。

②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。



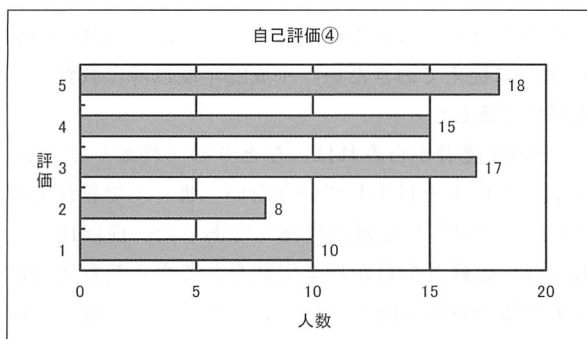
69名（100%）が教育実習はこれからの人生にとって貴重な体験となったとしている。

③大学卒業後は、教職関係に就職したい。



大学卒業後は、教職関係に就職したいとする者は、40名（58%）である。

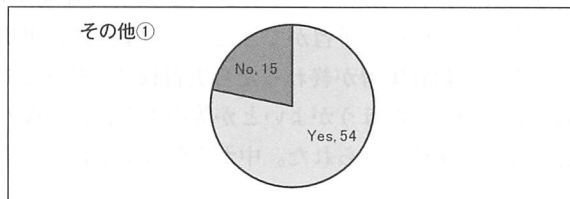
④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。



大学を卒業してからも、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりの方は、33名（48%）である。

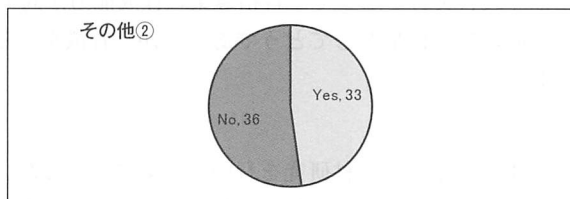
Ⅲ. その他

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。



授業実践を一度でも経験してから教育実習に行った者は、54名（78%）である。

②あなたは、今年度の公立学校教員採用選考試験を受けましたか。

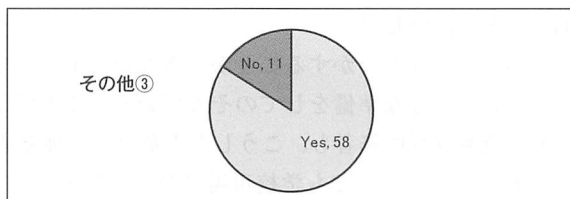


今年度の公立学校教員採用選考試験を受けた者は、33名（48%）である。

また、受験地の内訳(延べ39)は、以下の通りである。

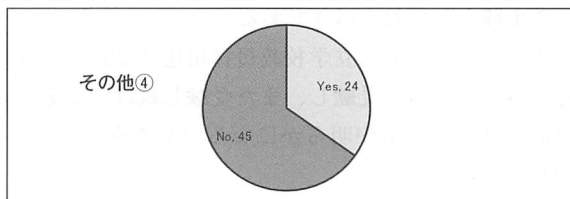
福岡県	北九州市	大分県	宮崎県	佐賀県	長崎県
3名	1名	9名	2名	0名	3名
熊本県	鹿児島県	沖縄県	東京都	大阪府	兵庫県
3名	3名	2名	5名	0名	1名
和歌山県	山口県	島根県	愛媛県	未記入	
1名	1名	1名	2名	2名	

③今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていますか。



今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていた者は、58名（84%）である。

④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。



平成24年11月30日（金）の時点で就職先が決まっている者は、24名（35%）である。

IV. 教職課程への要望

「今のことを続けて欲しい」、「いろんな先生方のお話を聴けたことで、教育実習を有意義なものにすることができた」、「丁寧に授業をして下さったり、様々な場から講師の方をお呼び下さったりしたところは特に良かった」、「教育実習へのいい予習ができた」等のように、現状を肯定する記述が見られた。

一方で、教育実習が終わったら実習校にお礼状を送ることを指導したほうがよいとか、マナーの点でより具体的な話しがあったほうがよいとか等のように、今後の運営に参考となる具体的な要望を記すものもあった。各学科とも記述がみられた。中から学科ごとに一点ずつを抜粋し、以下に掲載する。

4. まとめ

冒頭でも述べたように、今回は本アンケートを実施し始めてから6回目となる。これまでの結果報告（本冊子No.31、並びにNo.32参照）では、教育実習を終えた教職課程履修者について「熱意をもって授業にのぞみ、積極的に生徒に接している」、あるいは「遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守っている」、さらには「教育実習を通して学習指導案の作成能力が向上している」といった指摘がなされてきた。

今回の結果は果たしてどうであったか。特徴を見るため、項目ごとに前回の結果と比べてみよう。以下の通りである。

- I-①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。(今回84%で前回比+12%)
- I-②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。(今回51%で前回比-7%)
- I-③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。(今回97%で前回比+1%)
- I-④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。(今回84%で前回比-5%)
- I-⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。(今回88%で前回比-6%)
- II-①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。(今回81%で前回比-6%)
- II-②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。(今回100%で前回と同じ)
- II-③大学卒業後は、教職関係に就職したい。(今回58%で前回比+10%)
- II-④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。(今回48%で前回と同じ)

これまでの結果報告で指摘されてきた点に限って見れば、今回の結果からもこれまでの指摘と同じように言うことができるであろう。加えて「十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ」とする者の割合が前回比で+12%であることを評価したい。

思い通りになかなかすることができない。I-②でも示されたように、これが授業であろう。思い通りにいかないから、十分な準備をしてのぞんでいる。ここでは、そのように捉えておきたい。平成25年度以降に教育実習に臨む教職課程履修者も、こうした先輩たちの跡を是非とも継いで欲しい。

「大学生」といっても学校現場にひとたび入ったら生徒やその保護者からみれば、ひとりの「教師」である。学習指導案の作成能力の向上はもちろんのこと、授業自体の質的な向上を目指していきたい。III-①で教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験したことがあると回答した割合は78%であった。前回比で-12%である。本冊子の前号No.32にも記したが、本学では教職課程履修者全員が授業実践をしてから教育実習にのぞむことを勧めている。「教師」になることを自覚し、授業自体の質的な向上を目指して教育実習に行く前に授業実践をしておくべきである。

また、III-②で公立学校教員採用選考試験を受験した割合が48%と半数近い。教職課程では更なる割合の上昇を期待している。受験し、また受験し続けてこそ、教員としての資質・能力を問うことができるし、自らの立ち位置と進むべき道が明らかになるであろう。受験に向けては、【教職教養】受験対策講座（2月開催）などを活用してもらいたい。

これからも、本学教職課程履修者の要望にひとつひとつ応えていくつもりである。本学から一人でも多くの優れた教師を輩出していきたい。